

## 令和2年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

高知県、宮崎県及び鹿児島県における  
早期栽培の作柄は、『やや不良』の見込み

### 【調査結果】

西南暖地の早期栽培の作柄は、高知県、宮崎県及び鹿児島県で『やや不良』が見込まれる。これは、田植期以降の低温の影響により穂数が「やや少ない」と見込まれ、出穂期以降の大雨、日照不足により登熟が「やや不良」ないし「平年並み」と見込まれるためである。

沖縄県の第一期稲の作柄は、出穂期以降おおむね天候に恵まれたことから『やや良』が見込まれる。

表 令和2年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

区分	平年比較					田植期				出穂期				出穂 済面 積割 合 %		
	作柄 の良 否	穂数 の多 少	一穂 当た り もみ 数の 多少	全も み数 の多 少	登熟 の良 否	始 期	最盛 期	終 期	最盛期 の比較		始 期	最盛 期	終 期		最盛期 の比較	
									対平 年差	対前 年差					対平 年差	対前 年差
高知	やや不良	やや少ない	やや多い	やや多い	やや不良	4. 3	4. 11	4. 21	△ 1	0	6. 23	7. 2	…	0	△ 1	92
宮崎	やや不良	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	3. 19	3. 25	4. 4	△ 1	0	6. 19	6. 24	6. 30	0	0	100
鹿児島	やや不良	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	3. 17	4. 2	4. 16	△ 2	△ 2	6. 16	6. 26	7. 15	0	0	95
沖縄	やや良	平年並み	平年並み	やや多い	やや良	2. 5	3. 2	3. 20	△ 4	△ 1	4. 22	5. 21	6. 14	△ 1	2	100

- 注：1 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。  
2 「最盛期の比較」欄の「△」は、平年（前年）より早いことを示している。また、「対平年差」は前5か年の平  
均値との比較である。  
3 全国の水稲の収穫量に占める本表の4県における早期栽培等の割合は、令和元年産で1.0%となっている。  
4 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

○ 西南暖地における早期栽培等とは、四国及び南九州の地域で主に台風による被害を避けるため8月中旬頃までに収穫する栽培方法並びに沖縄県における二期作の第一期稲である。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。  
【 [https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y1](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y1) 】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

1 西南暖地における早期栽培等の10a当たり収量及び作況指数の推移

区 分	平成26年産		27		28		29		30		令和元年産	
	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数
高 知	470	98	462	96	481	101	498	104	465	97	455	95
宮 崎	488	102	411	85	461	97	494	103	476	100	459	96
鹿 児 島	455	103	396	88	429	96	472	107	450	101	438	98
沖 縄	325	88	342	92	351	95	354	96	364	101	331	92

資料：農林水産省統計部『作物統計』（以下2まで同じ。）

注：1 10a当たり収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（四国及び沖縄は1.75mm、九州は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産は1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 西南暖地における早期栽培等の収穫量の推移

区 分	平成26年産			27			28		
	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合
高 知	55,600	34,800	63	53,300	31,200	59	54,000	31,600	59
宮 崎	90,400	38,200	42	80,300	29,100	36	83,700	31,000	37
鹿 児 島	105,600	24,200	23	98,900	19,400	20	101,400	19,800	20
沖 縄	2,240	1,900	85	2,320	1,900	82	2,300	1,970	86

区 分	29			30			令和元年産		
	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合
高 知	54,600	32,400	59	50,700	30,100	59	47,900	29,300	61
宮 崎	81,300	31,900	39	79,400	30,500	38	74,900	28,900	39
鹿 児 島	99,100	21,100	21	92,400	19,500	21	88,500	19,100	22
沖 縄	2,190	1,900	87	2,200	1,920	87	2,000	1,670	84

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作柄概況調査として実施したものであり、水稻の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

### 2 調査の対象

#### (1) 調査の範囲

西南暖地における早期栽培等の調査対象県は、8月中旬頃までに刈取りがおおむね終了する早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県並びに二期作栽培のうちの第一期稲の沖縄県としている。

なお、徳島県については7月15日現在の出穂済み面積割合が低く、穂数、もみ数等の作柄を判断する項目の調査が終了していないことから、表章していない。

#### (2) 調査対象の選定

水稻が栽培されている耕地

#### (3) 調査対象数

作況標本筆：290筆 作況基準筆：17筆

### 3 調査事項

田植期の遅速、出穂期の遅速、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種条件等

### 4 調査期日

令和2年7月15日現在における水稻の生育・作柄概況を調査した。

### 5 調査・集計方法

#### (1) 母集団

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、田耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団としている。

#### (2) 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

#### (3) 標本配分及び抽出

都道府県別の標本数を階層別に比例配分する。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積（田台帳面積）に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稲が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆（実測調査を行う筆）とする。

(4) 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

(5) 作柄の良否の把握

作柄の良否は、1株当たり穂数、1穂当たりもみ数、登熟状況等の収量構成要素のうち計測可能なものを実測し、実測できない場合は、同じ地域の作況標本筆等の実測結果を基に、過去の調査結果や気象データ等により10a当たり収量を予測し、5段階評価（平年対比）で取りまとめたものである。

なお、予測した10a当たり収量は、未確定の要素が多いことから公表していない。

## 6 用語の解説

- (1) 「作柄の良否」とは、10a当たり予想収量が平年と比較して多いか少ないかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (2) 「穂数の多少」とは、1m<sup>2</sup>当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1m<sup>2</sup>当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した1m<sup>2</sup>当たり穂数等の平年値との比較である。
- (7) 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。
- (8) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率である。
- (9) 「10a当たり平年収量」とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

## 7 利用上の注意

この統計表に記載された数値を他に転載する場合は、「令和2年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）」（農林水産省）による旨を記載してください。

## 8 その他

本調査における作柄概況（7月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

### 【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 [https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y1](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y1) 】

### 【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官

[https://www.maff.go.jp/j/seisaku\\_tokatu/](https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/)

#### お問合せ先

##### ◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部  
生産流通消費統計課 普通作物統計班  
電話：（代表）03-3502-8111 内線3682  
（直通）03-3502-5687  
FAX： 03-5511-8771

##### ◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部  
統計企画管理官 統計広報推進班  
電話：（代表）03-3502-8111 内線3589  
（直通）03-6744-2037  
FAX： 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)  
<https://www.e-stat.go.jp/>